

⑩ 「紛争」と「いじめ」

2025/4/7

白子隆志

新年度になりました。今年も可能な限り「院長の独り言」を発信します。10号になりました。過去の独り言は病院 HP にありますので、よかったら観てください。

ここ数年、ウクライナをはじめ中東地域で「紛争」あるいは「戦争」といわれるものが勃発しています。21 世紀になってさすがにこういうことは無くなると思っていたのは僕だけでしょうか？第二次世界大戦後、国連のもと平和が訪れたと思いきや、朝鮮半島、中東、東欧、ベトナムなどのアジアなど紛争が絶えたことはありません。

人間の学習能力とは？？？・・・と疑問をいただく毎日です。

こんなことを書くと、戦争を知らない戦後生まれだからとか、変人扱いされてしまう(右翼とか)のではないかとと思われるかもしれませんが、実は人間は「紛争」が好きなのではないだろうか？もちろん紛争の当事者たちはそんなこと思ってもいないだろうが、実は人間が紛争を好きな **DNA** を有しているのではないかと思う時があります。進化の過程で、自分が生き延びるために「生きているもの」を滅ぼして？食して生き延びてきた(弱肉強食)。生活圏(縄張りともいう)が重なり合えば、自分の生活を守るために相手を敵対してきたのが自然です。むろん、殺すまで戦うかどうかは他の動物とは異なるかもしれないが、必ず相手を倒すまで戦うという、生まれながらの本能ともいうべきもので、競争のない世界を一生避けることはできないと思われます。兄弟であれば、食べ物やおもちゃの取り合いなど日常茶飯事だし、学校で「いじめ」が問題になっていますが、これも人間の本能で「他人より優れている」「相手は自分より劣っている」ことで精神的安寧が得られるのではないだろうか？と思います。

「いじめ」は悪いことというのは親も学校の先生も知ってはいるものの、実は家庭内で妻や子供、ましては年寄りに対する暴力・暴言・虐待、職場ではパワハラやセクハラなど、知らず知らずして我々自身が犯してしまっている。こんな中で、子供たちに「いじめ」はいけないことと諭してもわかるはずもないのではないか？当の自分自身も、子供のころ、医師となつてからも人より上の立場に立とうと思って知らないうちに相手を傷つけていたに違いない(と振り返る)。

「紛争」に話を戻すと、海外での医療救援、特に自分は紛争地での外科医をやってきた関係上、紛争の悲惨さを他の日本人よりは接する機会が多かったと思います。もちろん、「紛争」を賛成する立場では決してありませんが、日本国内で聞く「話し合えば絶対に紛争は防げる」という論調には簡単には頷けません。もちろん「紛争」はいけないことはわかっているが、自分の身内が目の前で敵に殺されたらどう思いますか？もちろん人を殺めることは決していけないことではあることはわかっている、自分たちに非がないと思っても許せるだろうか？もちろん平和を維持することの大切さは、誰よりもわかっているつもりではあるが、海外でそれが通じるだろうか？身近では、北朝鮮・中国の脅威、ロシアのウクライナ侵攻など話し合いで簡単にいく代物ではないことは誰もが知っているはずだ。

トランプ政権が、現在ウクライナとロシアの停戦を仲介しているが、どうみても「喧嘩両成敗

(けんかりようせいばい)」にはなっていません。イスラエルとパレスチナも停戦合意に向け踏み出したが、結局停戦が破られ停戦合意履行には程遠い状態になっています。

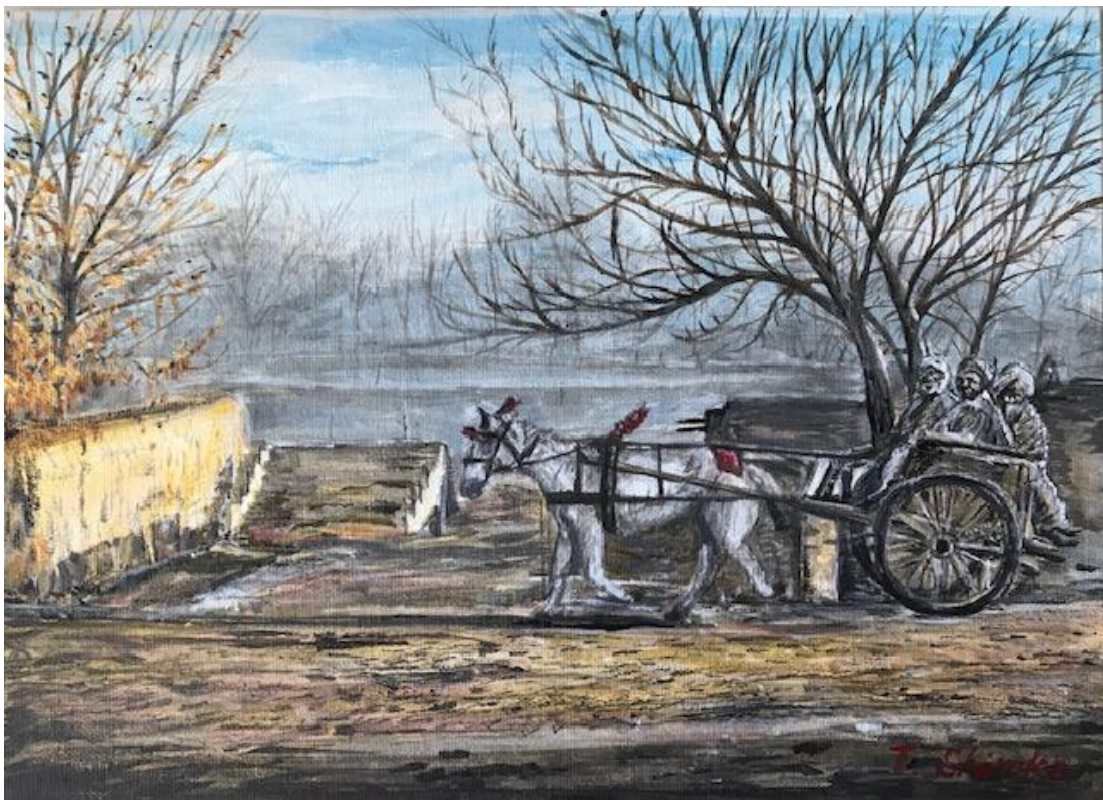
自衛隊反対、攻撃反対を唱えている政党も多いが、もしも日本が侵略を受けたときにその政治家たちは先頭に立って(銃弾が飛び交う前線で)、相手を説得してくれるのだろうか？私はとても疑問です。

「紛争」も「いじめ」もどちらも人間がもつ「相手より上に立ちたい」という本能の一部であるとするならば、人類の進化や発展はこれによってもたらされたものと理解すべきである。ではどうやって、「紛争」を止めるか？動物たちがやってきた(やっている)ように、しっぽを巻いて逃げるまで戦うしか仕方がないかもしれません。

悲しいことに結局永遠に解決方法がないのかもしれない。

あなたの身の回りにもいっぱいありますよね？「いじめ」「パワハラ」「カスハラ」「誹謗・中傷」・・・少しは人間も学習能力があるのであれば、相手を包み込む寛容の気持ち余裕が必要ではないかと考えます。

SF 映画の中で将来の地球は「猿の惑星」、あるいは「ロボットに支配される世界」になっていましたが、これらが現実になっているかもしれませんね。(100 年後には僕は死んでいます)



アフガニスタン タロカンの冬の朝(2005年)

霧なのか、各家々で朝食のためのかまどからの煙なのか、毎朝霞んでいました
自動車 バイク 自転車 歩行者 馬車 ロバが行き交う冬の朝の風景